

おのの

志布志市立尾野見小学校

自分の成長を実感し、次へ進もう！

校長 川崎 咲子

「終わりよければ全てよし」とか「有終の美を飾る」という言葉があります。

一年の内でも最も大切にしたいこの期間をこのように休まなければならぬ子どもたちのくやしさと、休ませなければならぬ担任の苦しさがとてもよく分かります。普段であれば、一年間の学習を振り返って、定着の十分でないところや忘れてしまっているところを繰り返し学習させるところですが、今回はそれを繰り返していません。そのため、先日の十六日の登校日は、少しでも時間が欲しいと、下校時刻ぎりぎりまで学年毎に様々な活動をしていました。やり残した内容については、六年生は中学校で、その他の学年は進級した学年で補充します。しかし、担任としては、自分でやり終えたいところと、強く伸びることがあるから、しなやかで

【校訓】
明るく・強く正しく・すこやかに

- ・三月の生活目標
- ・一年間のしめくりをしよう。
- ・三月の保健目標
- ・一年間の健康生活のまとめをしよう。

久々の子どもたちと

三月十六日（月）に十四日ぶりに子どもたちと会うことができました。この二週間、子どもたちのいない学校は、シーンと静まりかえっていましたが、この日は、子どもたちの元気な声と歌声が朝から響いていました。そんな中、子どもたちは、久々の学校に喜びを感じているようにうでした。新型コロナウイルスウィルス感染症は、未だに収束の見通しが立たない状況です。そのため本校では、全校朝会を放送で実施しました。子どもたち一人一人に呼びかける校長先生の声に子どもたちは、真剣に耳を傾けていました。



現在、日本は、感染が大幅な増加傾向にはありませんが、私たち一人一人が今後も感染予防のためにできることを心がけていきましょう。

六年生を送る会とお別れ遠足

二月二十八日（金）に、六年生を送る会を行いました。一年生から五年生まで、それぞれ趣向を凝らした歌や踊り、クイズ、メッセ―ジを六年生に送りました。最後には、子どもたち全員の歌声が、体育館いっぱいに広がりました。また、午後からは、元気いっぱい全校「けいどろ」をしました。上学年、下学年入り混じってとても盛り上がりました。まさか、今年度みんなで遊ぶ日が、これで最後になるとは思いませんでした。思い出に残る遠足になりました。



残る遠足になりました。

こま打ち体験

二月十三日（木）に全校でシイタケのこま打ち体験をしました。五・六年生は、ドリルを使って、こまを打つ穴を削っていきましました。一年生から、四年生はその穴に、こまを金づちで打っていきましました。どの子も二、三人で協力してスムーズに取り組むことができました。



成長するまでに二年から三年かかるそうです。再来年の秋の収穫が楽しみです。